

2025年度 鶴見あけぼの保育園の自己評価

記入日 2026年3月19日	職員との確認日 (2026年3月28日)	作成者氏名 穴井真紀子	
自己評価の観点	評価項目	振り返り内容	
I 保育理念	子どもの最善の利益の考慮 ①子どもの人権の尊重 ②保育方針・保育目標	①子ども達ひとりひとりの成長や持ち味を大事にし、尊重しながら保育をしてきた。性別や国や文化の違いを固定的に見ることなく配慮しながら保育を進めてきた。 ②鶴見あけぼの保育園が掲げる、ひとりひとりが主人公！子どもの主体性を大切に！をもとに保育をしてきた。職員不足を補うため、クラス体制だけにとどまらず全職員で協力し合い保育の質を保ってきた。	
	1. 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場 ①健康・安全で心地よい生活 ②子どもの主体的な生活 ③人との関わりを育む環境	①子どもの健康管理は、適切か？感染症対応のマニュアルがあり理解し・実践しているか？衛生管理マニュアルがあり、理解し実践しているか？安全管理マニュアルがあり、理解し・実践しているか？事故や災害に備えた安全対策が実施されているか？ ②子ども自らが、主体的に遊び・生活できる環境設定(物的環境・人的環境)を意識的に心掛けているか？ ③人との関わりを育むことを意識した環境を設け、保育をしているか？	①子どもも大人も体調管理については、無理な当園・出勤の無いよう慎重に対応してきた。 ②子どもたちが自ら主体的に遊び・生活できるように話し合い、環境・時間の流れ・かかわりの部分で工夫した。子ども自身が選択・決定して遊びこめるよう環境設定し、子どもの成長に合わせておもちゃの入れ替えや環境変更をした。 ③園全体で異年齢の関わりを持つ機会を作り、日常保育・行事を工夫して行き、大きくなることへのあこがれを抱きながら育つ保育をした。
II 子どもの発達援助	2. 生活と発達の連続性 ①子ども親・発達親の理解と共有 ②発達過程に応じた保育 ③個人差への配慮 ④生活の連続性	①子ども親・発達親をクラス職員や園全体の職員と理解・共有し保育を実践しているか？ ②子ども一人一人に応じて保育目標を設定しているか？子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をしているか？その記録はあるか？ ③障害のあるなしに関わらず、ひとりひとりの家庭的背景・発達段階を考慮した保育を行っているか？ ④生活の連続性を意識した保育計画・保育内容になっているか？	①日中(午睡時)に、職員会議・クラス代表者会議・乳児会議・幼児会議・給食会議・行事担当者会議などを開催。また、報告・連絡事項を適時回覧し、共通理解のもとで保育運営を進めた。②一人ひとりの個性や発達を尊重し、月ごとに目指す姿や働きかけを確認しながら保育を進めた。③障害のあるなしにかかわらず、個々の成長発達を確認しながら、ひとりひとりがその子らしく生活し遊べるように進めた。 ④育ちの経過や日々の積み重ねにこそ意味があると考え、保育計画・保育実践を進めてきた。「大きくなりたい」思いが膨らむよう異年齢のつながりを大切にしたい。
	3. 養護と教育の一体的展開①主に乳幼児保育における養護と教育の一体的展開 ②主に1、2歳児の保育における養護と教育の一体的展開 ③主に3、4、5歳児の保育における養護と教育の一体的展開	①「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための援助であることを理解しているか？「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための援助であることを理解しているか？	養護では、生命の安全を第一優先にするとともに、情緒の安定を常に考慮してきた。クラス懇談会や個人面談を通じて、児童の園での様子・家庭での様子を伝え合い子ども理解を深め、最善の方法を見出し保育してきた。教育では、物事を深くとらえ経過や成り立ちを知ることができるように意識的に保育した。子どもたちの生命・安全を最優先に対応した。
	4. 環境を通して行う保育 ①保育の環境 ・人的環境 ・物的環境 ・空間 ・自然や社会事象等 ②環境の構成・再構成	①子どもが、快適に過ごせる環境(清潔・採光・換気・照明など)への配慮がなされているか？子どもの発達に応じた、環境設定を意識的にしているか？身近な自然を通して感性を育みさまざまな気づきにつながるようにしているか？その日の天候・気象に合わせた保育をしているか？身近な動植物を飼育・栽培するなどし、それらに興味や関心が持てるよう配慮しているか？遊びと生活が、学び(数・図形・言葉・文字など)につながるように工夫しているか？ ②季節の変化や子どもの育ちの変化に合わせた環境の構成や再構成をしているか？	①自然の摂理に沿って、また人間らしく健康に生活できるように意識し、より自然な採光・換気・照明で保育してきた。保育をするうえで自然とのかかわりはすべてのクラスが常に意識した。土・太陽・風・草木・生き物との関わりや世話などを通して学びを深めた。異年齢との関わりを得られるよう計画の段階で担任同士が話し合い、都度連携し保育した。事前に天候の確認をし、臨機応変にホールでリズムあそびをする・行事後の絵を描く・制作活動をするなど適時対応した。急な天候変化の場合も、子どもの安全・安心を考慮しつつ画一的な保育ではなく、充実した活動になるように努めてきた。子どもたちが、生活の主人公となり主体的に生活し遊ぶ中で、学びを得られるように、子どもをせかせかなくゆっくりとした時間の中で保育を進めてきた。②季節を感じる保育・食育を子ども達の成長に合わせて保育を行った。
	1. 家庭との緊密な連携 ①子どもの成長の喜びを共有 ②保育内容等の説明・応答責任 ③子育てに関する相談・援助 ④保護者への個別支援 2. 地域における子育て支援 ①保育所機能の開放 ②関係機関との連携 ③情報提供	1、①子どもの成長の喜びを保護者と共有できるように配慮しているか？②日常の保育を保護者に理解し・援助してもらえるように配慮しているか？③子育てに関する相談が、日常しやすいように努めているか？個人面談など、保護者を個別支援できるように配慮しているか？ 2、①子育て中の地域の方に向けた支援活動を意識的にしているか？②保育の充実のために、関係機関との連携を十分行っているか？③保護者や職員に対する情報提供を必要に応じて行っているか？	1、①②③子どもを真ん中に保護者と手をつなぐ保育の実現に向け、保育参観や保育参加を行ったり、連絡ノート(年長児まで)・園だよりクラスだよりを活用して保護者と一緒に子どもの成長を支えた。職員は、できる限り全職員の共通理解のもとで保護者・子どもを支えられるよう努めた。送迎時はもとより、クラス懇談会・個人面談などで、子どもの育ちを伝え保護者の悩みに応えるなど信頼関係を作りながら共育を進めた。様々な国のお子さんが入園する中、言葉の壁や食生活・生活習慣の違いなどがあっても尊重し支援しながら進めた。 2、①②③地域に向けて保育園見学会を9月～10月末まで週一回開催した。地域の保護者が安心して豊かな子育てができるように考慮し、見学会予定日以外にも適時、見学会対応を行った。
IV 保育を支える組織的基盤	1. 健康及び安全の実施体制 ①健康の保持及び増進 ②安全・衛生管理 ③家庭や保健・医療機関等との連携 2. 職員の資質向上 ①保育士の計画 ②保育士等の自己評価 ③保育所の自己評価 ④研修 3. 運営・管理、社会的責任 ①法令等の遵守 ②個人情報の取扱と苦情解決の責任 ③施設長等の責務	1、①園の保育理念・方針・保育課程などを正しく説明できるか？指導計画のわらいや内容を保護者にわかるように説明できるか？指導計画作成は、保育課程にもとづいて作成しているか？子どもの医療や保健に関する問題について連絡・相談すべきところを知っているか？②緊急時の対応が、できるようにマニュアルがあり、理解し、実践できるようにしているか？③子どもの健康保持・増進及びより良い発達のために 家庭と保健・医療機関との連携を通して保育をしているか？ 2、①会議などでは、子どもの最善の利益を尊重して発言しているか？②自己評価等で自分の課題を見つけ、次の課題解決に向け自己研鑽しているか？④園内外の研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めているか？ 3、①守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか？②個人情報の取り扱いや守秘義務について十分理解し、徹底しているか？保護者の要望や苦情を訴えやすい仕組みを用意し迅速に対応できるようにしているか？③施設長として、保育所の理念や基本方針等について職員に十分周知しているか？施設長は、重要な意思決定にあたり、職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか？	1、①年度初めに理念・方針・全体的な保育を職員に配布、再確認した。②水遊び時に監視員を必ず配置した。園医や療育センター・作業療法士などの専門機関と常に連携し、必要に応じて連絡を取り合った。 2、①職員会議以外に代表者・乳児・幼児・クラス・給食などの少人数の会議を行い、子どもの最善の利益を尊重する立場で発言し保育できるよう努めた。各クラスの自己評価を週ごとに行った。職員自身の気づきや保護者からの意見要望を受け止め、組織として適切な保育運営となるようにした。保育士キャリアアップ研修を受講した。 3、①②③守るべき法・規範・倫理等についてや個人情報の取り扱い・守秘義務については、「鶴見あけぼの保育園の職員として働くにあたって」の配布や内容確認を行い週知徹底した。保護者からの意見・要望は年2回の三者懇談会時に話し合った他、些細なことでも、いつでも聞き取りができるよう園長と職員が連携した。保育実習生を1名受け入れ、全クラスで対応した。中学生の職業体験を2校・各2名ずつ積極的に受け入れ次世代の保育士育成の援助を行った。②個人情報の取り扱いには十分留意した。前年度から保護者に詳細説明をして理解を得、5月より給食費値上げした。③園長は、全ての責務を果たすべく努力した。
	次年度の課題	2025年度は、正規職員が少ない中ではあったが全職員の努力と連携のもと、職員皆が丸となって保育運営を進めた。発達保障の見地に立ち、子どもの主体性の尊重とあそびの充実が行われ、保護者との信頼関係を築きながら保育した。年長児が他児の憧れの存在となり、小さい子の育ちを支えた。海外の子どもや日本以外の国をルーツに持つ子どもの保育をする上での苦労も多かったが、丁寧に関わり工夫しながら支援し、保護者との信頼関係を築き子ども達がより良く育った。 2026年度は保育士を増やし、園外保育の充実・保育事務時間の確保・休憩時間の確保をし、働きやすい職場を目指す。保護者会から寄贈されたロールマットの使い方について研修し、子どもたちのしなやかな身体作りを進める。五感の育みの他、固有覚・前庭覚を刺激し脳の発達を促す保育を実践していく。また、包括的性教育について学び、人権意識を高め、できることから実践していく。これまで同様、子どもたちの豊かな育ちのために、保育制度の充実・保育予算の増額を求め、行政への働きかけや署名活動などを行い、保護者と共に保育運動を進めていく。	